

氏 名	福田 恵子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	学 術
学位授与番号	博甲第3489号
学位授与の日付	平成19年 9月30日
学位授与の要件	自然科学研究科資源管理科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	地域づくりにおける人的資源特性を活かした組織化の方策 ー活動組織の持続・発展性に関する要因分析を中心としてー
論文審査委員	教授 佐藤 豊信    教授 小松 泰信    教授 横溝 功

#### 学位論文内容の要旨

人口減少と高齢化が進み、社会活力のさらなる衰退が懸念される過疎地域での地域づくり活動は、生活環境を保全し、集落を維持するといった根元的な生活課題に結びついている。スリム化に向かう今日の行政機能を背景に、地域住民の自助・共助による地域コミュニティ再生への期待は大きい。しかし、その前提として、地域づくり活動が長期的に連続した取り組みであること、また、地域社会の自立が目指されていること、すなわち、地域住民の継続的な参加とその貢献の質ー地域マネジメント能力ーが問われている。このような課題を背景として、本論文では、地域づくりに携わる人々の主体的な特性を把握するとともに、組織の提供する誘因と活動者の貢献の均衡関係もふまえて、人的資源特性を活かした継続的で実効性のある組織化の方策を示すことを目的とした。

研究に際しては、3つの地域づくり組織ー地縁組織、市民組織、集落営農組織ーを対象とした。地縁組織は、地域づくりを担ってきた伝統的な地域集団組織であり、任意参加による市民組織は、これからの地域づくりを担う組織としてその自発性と機動性に期待が寄せられている。集落営農組織についてはその生産機能に着目し、活動に事業性をもたせることの効用を把握することをねらいとした。分析の枠組みは以下の通りである。

(1)本論における分析の理論的基盤を明示し、地域づくりへの参加・協同に関する意思決定モデルの構築を行った。また、活動者の地域づくりに対する能力・スキル意識を測定するための指標の作成を行った。(2)参加・協同への意思決定のあり方をもとに、地域づくりにおける人的資源の類型化を試みた。それを共通の尺度として、各組織の人的資源特性と活性化への課題について明らかにした。(3)活動者の能力・スキル意識、意欲(積極性)といった認知的側面から組織のもつ人的資源特性を明らかにするとともに、組織の持続・発展を意図した効果的な人材構成のあり方について検討を行った。(4)活動者と組織との関係、すなわち、貢献と活動効用の享受バランスに関する時系列的な変化から、活動者の継続的な参加と組織の持続・発展にかかわる要因と課題を明らかにした。(5)以上の分析結果にもとづき、人的資源特性を活かした継続的で実効性のある組織化の方策について提案を行った。

## 論文審査結果の要旨

地域づくり活動は、長期的・連続的な取り組みが必要であるため、地域住民の継続的な参加とその貢献の質が重要である。本研究では、地域づくりに携わる人々の主体的な特性を把握するとともに、組織の提供する誘因と活動者の貢献の均衡関係を考慮して、人的資源特性を活かした継続的で実効性のある組織化の方策を示すことを目的としている。

第1に、地域づくりへの参加・協同に関する意思決定モデルの構築と能力・スキル指標の作成を行っている。特に、既往研究では分析されてこなかった活動主体の価値意識、期待感、能力感、満足感、意欲および活動に対する評価といった、認知的な諸概念を網羅した意思決定モデルを作成している。

第2に、地域づくりにおける人的資源の類型からみた組織特性を明らかにしている。特に、地域に対する評価意識や能力感、意欲等といった要因から、①非成果主義的継続群、②地域信頼型貢献群、③形式的参加群、④共同体への義務的参加群の4つに類別出来ることを明らかにしている。

第3に、人的資源特性を活用した集団の機能性を高める組織化の方策を明らかにしている。“高齢層”の集団における調整役としての重要性、“壮年層”の活動面における重要性、“若年リーダー”の貢献意欲の重要性を明らかにしている。“女性”の活動参画の有効性も明らかにしている。

第4に、人的資源特性を活かした組織化の方策を提示している。組織の持続・発展をはかる観点から、組織および人的資源の特性と、その影響要因をふまえた人的資源の組織化の方策について提案を行っている。組織化の方策は、①組織のもつ人的資源特性の診断と人材の確保、②能力・スキル意識に適応した活動の充当（適材適所）、③人的資源の資質向上のための効果的な方策、④コスト（負担）を増大させない活動環境に関するマネジメント、⑤誘因と組織目的とのマッチングをはかる組織構成のあり方が重要であることを明らかにしている。

これらの知見ならびに分析モデルは、地域づくり活動を政策的に支援するにあたり、有効な分析手法・対策を提示できる。本学位審査会は、これらの成果を総合的に審査し、本論文が博士（学術）の学位に値するものであると判定した。